

2024/05/18

6月15日に宇都宮大学で開催された日本国際開発学会第25回春季大会において、研究成果を発表しました。

谷口京子

マラウイの就学前教育における保育者の自発的な教育実践

要旨

本研究の目的は、マラウイの就学前教育における保育者の自発的な教育実践について分析することである。マラウイでは、保育者の養成は行われておらず、政府や支援団体による2週間のトレーニングを受けるケースが一般的である。現在、約47.3%の保育者がトレーニングを受けている。また、無償の施設であるコミュニティ・ベース・チャイルドケア・センター(CBCC)の保育者は基本的に無報酬のボランティアである。

調査対象は、マラウイ北部に位置するンカタベイ県にある5つのCBCC施設の保育者17名と、コミュニティメンバー29名であった。各CBCCでの活動観察、保育者への半構造化インタビュー、およびコミュニティメンバーへのフォーカス・グループ・ディスカッションを実施した。調査は2022年9月、2023年5月、2023年12月に実施した。

教育実践はCBCCごとに異なっていた。全体的には、就学準備を重視し、教師主導でカレンダーやアルファベット、数字、身体の部位の名前などを暗記させる活動が行われていた。調査対象のCBCCでは政府が発行するカリキュラムは見られなかったが、一部のCBCCには保育者向けのガイドブックがあった。これは、政府のカリキュラムや保育者向けガイドブックが発行される以前にCBCCが設立され、政府の介入が近年まで行われていなかったためである。A、B、C施設では、保育者の半数がトレーニングを受け、その知識と独自のアイデアに基づいて活動を行っていた。A施設では、小学校のように時間割を作成し、それに沿って活動を行っていた。B施設では、保育者の知識に基づいて活動を行っていた。C施設では、保育者が活動計画を立案し、それに従って活動が行われていた。一方、DとE施設では、すべての保育者がドナーからの2週間のトレーニングを受け、そのトレーニングで得た資料に基づいて活動が行われていた。トレーニングを受けた保育者もいたが、多くの保育者が自発的な取り組みに基づいて活動を行っていた。